



私の仕事



国籍	ベトナム
職種	介護
実習実施者	社会医療法人蘇西厚生会
監理団体	中部中小企業共栄会協同組合

ドー ティ ニュー
DO THI NHU

皆さん、介護職という職業を聞いたことがありますか。日本では、高齢や心身の障害などの原因により、日常生活を営むことに支障がある人に対して世話をすることを介護職と定義されています。ベトナムでは、日本と違い介護の概念があまり浸透しておらず、社会的にも認知されていないと言えるため高齢者の世話は、家族が行っています。日本の介護は、人道的で高度な専門的知識が必要です。つまり、プロ意識を持って仕事をしています。

私が介護職に勤めるため日本へ行くことと決めた時は、なぜ介護の仕事を選んだのかとたくさんの人に聞かれました。他人の世話をするのはとても大変な仕事で誰にでもできることではなく、若者には向いていないと諦めるようにアドバイスされました。私も簡単な仕事でないことは十分理解していましたが、自分を成長させるためには、学びが必要なことでした。長い間、コロナが蔓延して日本へ行くことを待たなければならない状況でしたが、後悔しないために日本へ行くことを諦めませんでした。私にとって日本へ行くことは、新しい生活、新しい仕事、全て新しいことができるという期待が大きかつ

たように思います。

実際に、介護の仕事をしてみて初めは、知らない人を愛するように世話をするのは、不安や難しいことと思っていましたが、要介護者と接する内にそれほど難しいことではありませんでした。身体が不自由な人は、身の回りのことを思うように自分で動くことができません。不自由な人にどんな小さなことでも、その人のために何かをすることでその人の人生を豊かにできたら、それを幸せに感じたことはありませんか。自分自身、日本は母国でないので身内がそばにいませんが、困ったことがあった時に人から助けてもらおうと嬉しい気持ちになります。また、何かを成し遂げた時は、一人で喜ぶより誰かと喜びを得た時の方が気持ちが落ち着き自然と笑顔になります。私は介護職を通して人間は、一人で生きていけないと感じています。

日本人は、いつも「ありがとう」と「すみません」を言う習慣があります。誰もが知っていますが、私はその言葉を聞くたびに、本当に嬉しいし、幸せを感じます。働き始めた時は、日本語が話せるか心配でした。「分かりますか」と言われて理解するまでに時間が掛かり困ったことがたくさんありました。しかし、職場の皆さんから助けられて言葉も少しずつ分かるようになりました。そして、通訳の役割を任されたことがあります。互いに言葉が分からない人の間に入り、互いが理解し納得した時は、私は皆さんから必要とされている事を感じました。私の担当者は「日本での介護の仕事が少しでも楽しく感じてもらえるように応援します」と言ってくれました。ここで働くことができ本当に幸運だと感じています。だから、皆さん、自信を持ってやりたいことを選ぶ勇気を持って下さい。日本は、あなた達を必要としています。